

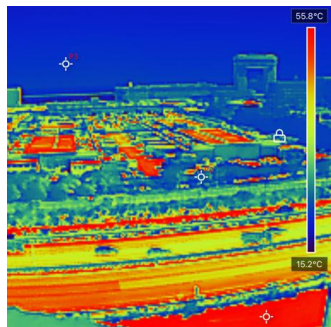
リアルタイム環境情報×快適ルート誘導 ～スマート暑熱回避ナビ～

- ① 赤外線カメラとGIS連携による地表温度センシングにより、ヒートスポットや高温通路、快適な日陰ルートなどをリアルタイムに可視化 ⇒ **Infra-Sensing**
- ② 来街者の現在地や目的地に応じてリアルタイムにAIが快適ルートを提案。まちなかのクールスポット（休憩所、店舗、施設など）との連携により、暑熱を回避した導線を構築 ⇒ **Infra-GIS**
- ③ アプリ不要のWebマップサービスにより、来街者はスマートフォンを使い、現在位置から目的地までの「涼しいルート」や「最寄りのクールスポット」を簡単に確認 ⇒ **Cool Navi Lite**

環境データの取得



気象・大気センサ



赤外線カメラ（地表温度）

リアルタイムに
気象・大気・地表温度
データを取得・表示

リアルタイムに快適な移動 ルートを生成・配信



特徴

- GISとの連携による動的ルート最適化
- ヒートスポットや日陰ルートを高精度に可視化
⇒暑さを“感覚”ではなく“情報”で捉え、行動変容へ
- 涼しいルート上にある店舗や休憩場所と連携（「熱中症対策スポット」「涼感商品提供店」として可視化）
⇒経済循環の創出へ



グリーンブルーが提供可能なソリューション

自治体の 課題・ニーズ	提供ソリューション (本プロジェクトの機能)	具体的な貢献価値
熱中症 リスク軽減 (健康・安全)	①「Cool Navi Lite」による暑熱回避支援 - リアルタイム快適ルート案内 - 最寄りのクールスポット情報提供 - 熱中症警戒情報連携	- 市民・来街者の熱中症発症リスクを直接的に低減。 - 暑い日でも外出できる「行動の安心」を提供。 - 高齢者や観光客などの不慣れな層を効果的に保護。
暑熱環境のリアルタイム把握 (都市管理・計画)	②Infra-Sensing技術による都市環境モニタリング - 地表面温度の面的・リアルタイム可視化 - ヒートスポット、高温通路の特定 - 動的な空間補間アルゴリズムによるエリア全体推定	- 都市の暑熱環境を客観的かつ定量的に把握。 - ヒートアイランド対策や緑化計画におけるEBPM（証拠に基づく政策立案）を推進。 - 重点対策エリアや時間帯特定による効率的な施策投入。
回遊性・ 地域経済活性化 (観光・経済振興)	③Infra-GIS連携による回遊導線構築 - 暑熱を避けた「快適ルート」の自動提案 - クールスポット連携スタンプラリー - 各スポットでの限定特典提供	- 夏季の観光客・住民の外出・回遊行動を促進し、地域経済の停滞を回避。 - クールスポットへの送客により、地域店舗の売上向上に貢献。 「涼しく楽しめる観光地」としての都市ブランド価値向上。
市民参加・デジタル利用推進 (市民参加・共創)	④アプリ不要Webマップサービス「Cool Navi Lite」 - QRコード等での手軽なアクセス - 直感的なUI/UX - スタンプラリーによる参加体験	- 市民が日常的に利用できるデジタルサービスを提供し、行政サービスへのデジタルシフトを促進。 「涼しいまちづくり」という共通目標への市民の参加意識を醸成。
情報連携・共有 (広域連携・情報共有)	⑤GISプラットフォーム上でのデータ統合 - 暑熱情報、気象、クールスポット情報を一元管理 - 行政ダッシュボード機能（オプション）	- 熱中症対策関連情報の部署横断的な共有を促進。 - 災害時（例：停電・避難時）における暑熱リスク情報の迅速な提供体制を構築。